

活性汚泥法による畜舎汚水処理施設(オキシデーション・ディッチ型)の性能について

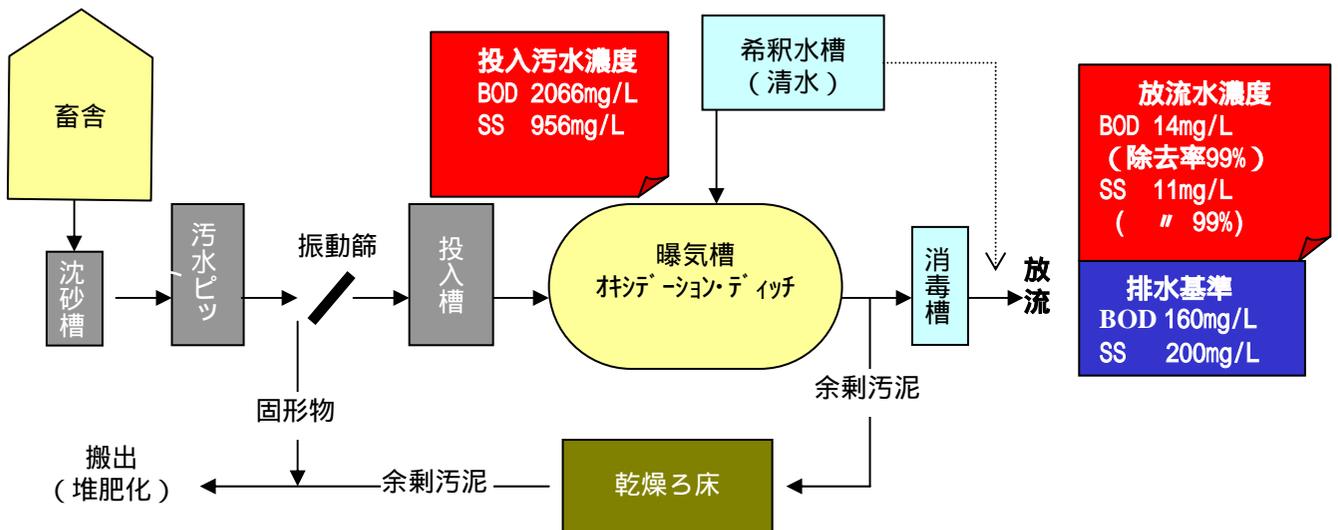
長崎県畜産試験場

要約

活性汚泥法による畜舎汚水処理施設(オキシデーション・ディッチ型回分式)の性能について1年間調査を行った。

- 曝気槽に投入する汚水のBOD、SSは平均2066、956mg/L、これを21時間曝気することで、処理水はそれぞれ平均14mg/L(除去率99%)、11mg/L(99%)に低下した。
- 処理水には淡黄色の着色があるものの平均透視度では23cmとなり、期間を通して良好に浄化ができた。

環境にやさしい畜産を推進するため、
当場では平成11年に畜舎汚水を浄化する
施設(オキシデーション・ディッチ型回分式
活性汚泥法汚水処理施設)を展示し、普及
促進を行っています。



用語解説

活性汚泥法: 汚水中で曝気(空気を吹き込むこと)すると好気性の微生物が汚濁物質を分解する。このとき綿状物質(活性汚泥)が出来るので、これを沈殿させると、上澄みはきれいな水になる。生活、産業排水の浄化処理のほとんどにこの方法が採用されている。BOD(ビーオーディー): 水の汚れ具合の尺度。数字が小さければきれいな水、大きければ汚れがひどい。

SS(エスエス): 水中に浮遊するチリ状の物質をいう。BODとともに水の汚れの尺度として用いる。オキシデーション・ディッチ: 陸上トラック型の曝気槽。汚水量の変動に強く、維持管理の容易性に特徴がある。